

必要経費の目安

ご旅行代金 335,000 円の他に別途下記の料金がかかります。
※詳細は、渡航手続き書類にてご案内申し上げます。
◆空港施設使用料 / 国際観光税 / 海外空港税・燃油特別付加運賃 (48,000円) 上記は2026月9月現在の金額です。
航空券の発券時点でレートは変動いたします。その場合は差額を徴収もしくは返金いたします。
◆渡航手続諸費用 (パスポートを新規取得、更新の方): パスポート新規申請代 (5 年用 11,000 円 / 10 年用 16,000 円 / 各自治体の戸籍謄本・住民票発行手数料や写真代別途要) このご旅行には 22027 年 5 月 27 日以降のパスポート有効期限が必要です。(＋2 週間以上の有効期限が望ましい)
◆お一人部屋追加料金: 40,000 円 (ホテルは基本 2 名一室です)
※お一人参加で相部屋をご希望の場合、最終的な部屋割りによってはやむを得ずお一人部屋追加料金を頂戴することがございます。予めご了承くださいませ。
◆任意の海外旅行保険
◆超過手荷物料金: 規定の重量、大きさ、個数を超える分についての手荷物運搬料金
◆個人的費用: 旅程表に明記されていないものの費用 (食事代、飲み物代・自由行動時の諸費用等)
◆ご自宅～発着空港までの交通費

現地の気温 (11月)

都市	最低気温	最高気温
マニラ	23℃	31℃
東京	5℃	22℃



旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第84号 JATA正会員

●この旅行に関するお問合せ・お申込みは下記まで

 株式会社 富士国際旅行社

〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町1-1-7 ヒューリックみなとみらい11F-4
総合旅行業務取扱管理者: 西須 輝理

TEL: 045-212-2101 FAX: 045-212-2201
fuji@fits-tyo.com 担当: 西須(さいす)・山田・川村・小島(おじま)

営業時間: 月～金曜日 / AM10:00～PM6:00 (休業日: 土日・祝日)
ホームページ: <http://www.fits-tyo.com/>

お申込方法

- 【紙で仮予約の場合】下記の予約票にご記入いただき、富士国際旅行社宛に郵送またはFAXまたはメール添付でお送りください。
- 【ウェブで仮予約の場合】下記QRコードにアクセスし、仮予約フォームを送信下さい。
- 弊社より、正式申込書や旅行アンケートなどの渡航手続き書類をお送りします。ご案内書面に記載の振込先に、**申込金50,000円** (旅行代金内金) をご送金ください。(申込書と申込金の両方の到着をもって正式申込)
- ツアー実施確定後、弊社よりご連絡いたします。説明会案内及び旅行費用残金ご請求書をお送りします。
- ご出発の2週間前ごろ、参加者向け旅行説明会を行います。(会場・オンライン参加可)

..... き・り・と・り

株式会社 富士国際旅行社 宛

参加予約票 「戦争するな！どの国も」国際署名を提出！日本AALAフィリピンツアー 2026年11月22日(日)発

パスポート ローマ字表記	-----	性別	生年月日	年 月 日 () 歳	ウェブ仮予約はこちらから↓
氏名		男・女	パスポート	有効旅券 (パスポート) 【有・無】 パスポート番号: 有効期限: 年 月 日	
住所	(〒 -)	AALA会員 【会員・非会員】 ↑○をお付けください。 どなたでも参加可能です			
連絡先	【tel】 () - 【fax】 () - 【携帯】 - - 【e-mail】				

ご旅行条件

旅行条件の詳細は「旅行業約款」(募集型企画旅行契約)によります。この旅行は2026年9月1日現在を基準としています。
■旅行契約の解除
参加者が最少催行人数に達しなかった場合は、旅行を中止することがあります。この場合は出発の23日前迄にお知らせします。
<取消料>
お客様都合で旅行を取消す場合は、下記の取消料をお支払いいただきます。
<解除時期・取消料>

契約の解除期日	取消料
旅行開始日から起算して遡って30日前以降	旅行費用の20%
旅行開始日前々日以降	旅行費用の50%
旅行開始後の解除、無連絡不参加	旅行費用の100%

ご旅行要項

■旅行代金に含まれるもの
①企画手配料金および手配料金 ②交通費: 旅程に明示した航空運賃、旅程に明示した専用車料金 ③宿泊費: 旅程表に明示したホテル又は同等クラスのホテル (弊社基準) の基本宿泊料および税、サービス料 (基本 2 名一室) ④食事代: 旅程表に明示 ⑤見学施設の入場料 ⑥講師・通訳者謝礼・同行費用 ⑦添乗員 1 名同行費用 ⑧視察費用・交流費用

■旅行代金に含まれないもの
①旅程表以外に行動される場合の交通費、宿泊料、飲食費等
②渡航手続諸費用: パスポート申請代 ③超過手荷物料金: 規定の重量、大きさ、個数を超える分についての手荷物運搬料金
④個人的費用: 旅程表に明記されていないものの費用・食事の時の飲み物代・自由行動時の諸費用等
⑤航空会社が課す 日本空港施設使用料・国際観光税・海外空港税・燃油特別付加運賃 (48,000円) 2026 月 9 月現在※航空券の発券時点でレートは変動します。その場合は差額を徴収もしくは返金いたします。⑥お一人部屋料金: 40,000円
⑦日本国内の交通費、前泊の費用 ⑧海外旅行傷害保険料



旅行期間 2026年 11月22日(日)～11月26日(木) 5日間

旅行代金 335,000円 (成田・関空) ※左記旅行代金とは別に、燃油特別付加運賃等48,000円が必要となります。

定 員 30名様 (最低実施人数15名様) 添 乗 員 成田空港より同行します

旅のポイント

※日本AALA企画のツアーですが、会員でなくてもご参加いただけます♪

- ASEAN議長国のフィリピン外務省に国際署名を届け、平和外交について考えます。
- マニラ市街戦やバターン死の行進など日本の戦争加害の実態を学ぶ
- スービック米海軍基地跡ー基地返還後の活用と現在の課題を学ぶ
- 通訳・中村みずきさん・非核フィリピン連合事務局長コラソンさん同行解説

企 画

※写真は全てイメージです

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 (略称: 日本AALA) MAIL: info@japan-aala.org TEL: 03-6453-7297

〒105-0014 東京都港区芝 1-4-9 平和会館6階

日次	都 市	交通機関	行程・宿泊地・食事(朝・昼・夕)
① 11/22 (日)	成 田 ・ 関 空 発 マ ニ ラ 着 マ ニ ラ	航空機 専 用 車	●成田(午前7:20集合)、関空(午前8:00集合) 予定 空路、フィリピンの首都マニラへ 【所要:約4時間半／時差:日本より1 時間遅れ】 午後:歴史学者のご案内でマニラ市内見学 ＊イントラムロス(マニラ市街戦に関連する場所を見学) ＊ツアー全体のプログラムに関するオリエンテーション (現在のフィリピン情勢についての概要説明) ※参加者夕食交流会 マ ニ ラ 泊 朝×昼機夕○
② 11/23 (月祝)	ホ テ ル 発 ケ ソ ン	専 用 車	午前:リサー公園 午前あるいは午後: マニラ市 ASEAN議長国のフィリピン外務省へ ★「戦争に反対する国際署名」提出 午前あるいは午後:ケソン市(非核都市) ＊英雄記念館を見学 夕食:現地の方と夕食交流会 (元上院議員・フィリピン大学の元教授・非核フィリピン連合の方など参加予定) マ ニ ラ 泊 朝○昼○夕○
③ 11/24 (火)	ホ テ ル 発 ス ー ビ ッ ク 着	専 用 車 専 用 車	早朝6:30ホテル発、陸路、スービックへ移動(3～4時間) <<スービックツアー>> ＊スービック・フリーポートを視察 ＊旧米海軍基地の施設(旧スービック弾薬庫など)を見学、 旧米軍基地をめぐる現状や課題について学ぶ 先住民コミュニティのメンバー、旧基地労働者、NGO・BUKLOD、 毒性廃棄物の被害者などと面会し、意見交換 旧米軍の駐留や軍事基地に関連して、現在彼らが直面する 問題についてお話を伺います。 ホテルにチェックイン後、休憩 夕食:スービック湾都市圏庁(SBMA)の元職員の方と交流予定 ス ー ビ ッ ク 泊 朝○昼○夕○
④ 11/25 (水)	ホ テ ル 発 バ タ ー ン ク ラ ー ク マ ニ ラ 着	専 用 車	午前:タルラックへ移動、「バターン死の行進」に関する施設訪問 タルラック州カパスにあるカパス国立慰霊碑を見学 昼食後、旧米空軍基地で現在基地跡地の経済開発が進められている 『クラーク地区』視察。 見学後、陸路:マニラに戻る(約3時間) 到着後、夕食:参加者感想交流会 マ ニ ラ 泊 朝○昼○夕○
⑤ 11/26 (木)	ホ テ ル 発 マ ニ ラ 空 港 着 成 田 ・ 関 空 着		午前:都市貧困層や虐待を受けた子供たちを支援するNGO代表者と 交流、支援活動について学びます。 昼頃、マニラ空港へ移動(昼食は各自空港にて自由食) 午後:空路、成田・関空へ 成田空港20:35頃着、関西空港20:05頃着予定 朝○昼×夕機

※上記は2026年9月現在暫定の行程表です。交流先の都合により、面会日時や内容等に変更が生じる場合がございます。外務省への国際署名提出のための訪問につきましては、例年、訪問日時や詳細が直前に決定されます。また、受け入れ側の都合により、代表者のみの訪問となる場合がございます。できる限り参加者全員で訪問できるよう調整・交渉しておりますが、ご希望に添えない場合もございますので、あらかじめご了承くださいようお願いいたします。

●利用航空会社 ：フィリピン航空
●宿泊予定ホテル：マニラ=ADMIRAL HOTEL または RIZAL PARK HOTTEL
スービック=SUBIC RIVIERA HOTEL または AURORA SUBIC HOTEL
●食事マーク：＝朝食、昼＝昼食、夕＝夕食、○＝食事つき、×＝自由食、機＝機内食



同行通訳

脱軍事化、脱植民地化を主なテーマに通訳・翻訳、執筆、ツアー企画などをおこなう。訳書にデニ・ムクウェゲ著「勇気ある女性たち 性暴力サバイバーの回復する力」(大月書店)、バーニー・サンダース著『寡頭制と闘え!』(地平社) など



中村みずきさん





ASEAN について

Association of Southeast Asian Nations—東南アジア諸国連合

ASEAN(東南アジア諸国連合)は、東南アジア11か国で構成される地域協力機構です。のちにASEANとなる国々は、唯一独立を守ったタイを除いて、20世紀に入っても英国、フランス、オランダなどの植民地支配を受けていました。第二次世界大戦中は日本の軍政下に置かれ、独立を果たしたのは戦後のことです。1960年代に入り、ベトナム戦争を契機にこれらの国々の間で地域協力の動きが活発化し、1967年の「バンコク宣言」によってASEANが設立されました。原加盟国はタイ、インドネシア、シンガポール、フィリピン、マレーシアの5か国です。1984年にブルネイが加盟し、1995年にベトナム、1997年にラオス、ミャンマー、1999年にカンボジアが加盟しました。さらに2025年には東ティモールが正式加盟し、現在は11か国で構成されています。 ASEANは約7億人の人口を擁する地域協力機構で、過去10年間に高い経済成長を遂げてきました。2030年にはASEAN全体のGDPが日本を上回ると予測されています。ASEANは今後、世界の「開かれた成長センター」として発展が期待される一方、植民地支配や戦争の歴史を乗り越え、「対話と協力」を重視する地域としても世界から注目されています。

マニラ最古の城郭都市・イントラムロス

リサール公園の北側にある16世紀のスペイン統治時代に造られた旧城塞都市です。当時は政治・軍事・宗教の中心地として機能しました。イントラムロスはスペイン語で“壁の内側”を意味します。第二次世界大戦で建物の大部分が破壊されましたが、1980年代に町が復旧されました。現在世界遺産にも登録されており、イントラムロスに存在するサン・アグスティン教会は第二次世界大戦を経て、唯一現存する建物です。

米軍スービック元海軍基地跡

マニラから北西へ車で2時間半。かつて米海軍の世界最大規模の施設といわれた基地がありました。15,000haの陸地を持ち、山間部が多くを占めています。山々は空からの射撃訓練場にも使用されていました。1991年のフィリピン上院決議に基づき、フィリピンに返還後、「経済特区」に指定。複合リゾートが建設され、基地に頼らない経済発展が実現しています。一方で、長く米軍管理下にあった湾周辺は、基地返還後も残留化学物質や重金属類、石綿、PCBなどに起因する深刻な環境汚染被害が起こり、住民は苦しめられました。また、民間利用されている港に米海軍のミサイル駆逐艦や輸送艦などが訓練や補給のため頻繁に寄港しており、返還されたにもかかわらず、訓練や抑止力を理由に基地の跡地が再び使用されていることに、地元住民は反発を強めています。



現地協力者

コラソン・ファブロスさん

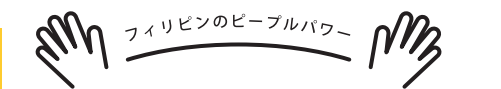
弁護士で活動家フィリピンで原子力発電所計画の阻止や米軍基地閉鎖のたたかいを主導してきた非核フィリピン連合の事務局長。原水爆禁止世界大会にフィリピン代表として参加している。国際平和ビューロー(IPB)共同会長。アジア・ヨーロッパ人民フォーラム、軍産複合体解体ネットワーク、軍事主義を許さない国際女性ネットワークなど、さまざまな国際キャンペーンで中心的役割を担っている。

英雄記念博物館

1965年～86年の20年間マルコス政権の圧制を経験したフィリピン。独裁政権の下、多くの人々が投獄・拷問され犠牲も多数出ました。英雄記念博物館は、そうした民主主義獲得への犠牲の記憶を後世に引き継ぐため2007年にオープンしました。同志や遺族によって運営され、独裁政権時の様子を伺い知ることができる貴重な場所です。博物館が位置するのはマニラの北東に位置するケソン市。この場所は1986年に打倒マルコス政権の大規模蜂起が市民によって行われた場所です。

バターン「死の行進」

アメリカ、フィリピン(米比)軍と日本軍の総力戦が行われ、4月9日、サマット山の陥落により米比軍は降伏。日本軍はバターン半島を占領した後、捕虜となった米比軍兵士約7万6000人を捕虜収容所への移送のため最長100数キロ歩かせました。道中、マラリアなどの病気や、日本軍の監視兵による虐待、殺害などにより、多くの死者を出したことから、「死の行進」と呼ばれています。死者数は7000人とも、1万人とも言われ、収容所で死者も合わせると約3万人ともされています。この「死の行進」は日本軍の残虐性を伝える事件として知られており、フィリピンでは、バターンが占領された4月9日を、戦闘や死の行進の犠牲者を悼む日として祝日としています。



1986年、独裁的なマルコス政権に抗議する約100万人の市民が集まり、その大きな動きが政権を退陣まで追い込んだ「エドゥサ革命」。この「**ピープルパワー(人民の力)**」の運動は、原発稼働の阻止、米軍基地撤去のたたかいにも発展していきます。米軍基地については、米比軍事基地協定が1991年期限切れとなるとき、ピープルパワーの動きを受け、上院議員の12対11の反対で協定延長が否決され、米軍基地撤退が決まりました。市民が社会を動かしたピープルパワーの運動は、様々な団体がつながりながら、今も続けられています。



▲バターン死の行進のモニュメント